

1

快適 で健全な生活 が 営めるまちづくり

I 環境の現況

本市における大気・水質・騒音・振動等の一般環境の状況を把握するため、市内の環境測定点で常時監視・測定を行っています。環境基準は概ね達成されており、近年、その測定値は横ばい状態となっています。

しかし、大気では、微小粒子状物質（PM2.5）や浮遊粒子状物質（SPM）及び光化学スモッグの原因物質である光化学オキシダントなどは環境基準を達成していない状況が続いており、全国的にも同様の状況となっています。特に、今年の初めに中国の大気汚染がクローズアップされ、国民のPM2.5への関心が高まりました。そこで県は、本年2月、本市にある宮の前児童公園測定局にPM2.5の測定項目を追加し、光化学オキシダント等と同様に山口県大気環境監視システムでの測定とともに、その速報値等をホームページで公表しています。また、PM2.5に関する注意喚起について、メール配信サービスも行っています。

(http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a15500/monitor/pm_mail.html 参照)

本市でも、県と連携を図り、しゅうなんメールサービスやホームページ、市役所の緊急連絡体制などを通して、速やかな情報提供に努めています。

河川における環境基準が定められている地点は、すべて環境基準を達成していますが、環境基準が定められていない中小河川では水質の悪化が懸念されます。

徳山湾では、コンビナートに近い沿岸部ではCOD（化学的酸素要求量）の環境基準を達成していますが、より基準の厳しい沖合では環境基準を達成していません。

湖沼では、測定している湖すべてでCODの環境基準を達成していますがT-N（全窒素）、T-P（全リン）は測定している湖すべてで達成していません。

環境騒音では、市内14地点での環境基準の達成率は86%でした。自動車騒音は、8地点のうち7地点が、自動車振動は3地点とも要請限度に適合していました。

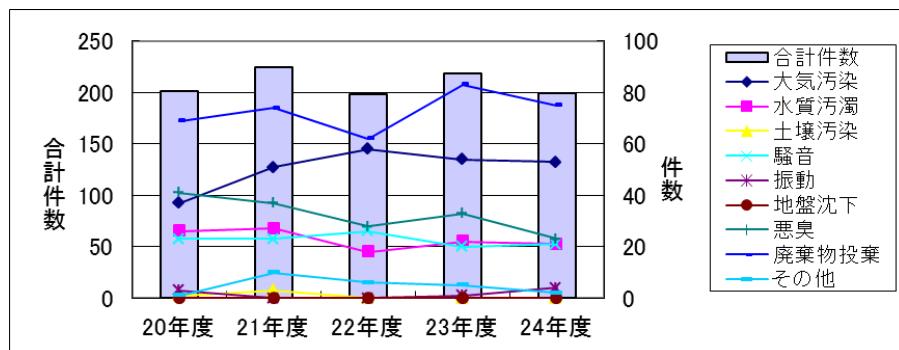
環境関連の苦情件数は横ばい傾向にあり、発生源が住居地域のものが全体の約44%を占めています。

1. 環境関連苦情の現状

平成24年度に市が受けた環境関連の苦情件数は199件でした。

被害地域は住居地域が87件と一番多く、苦情の種類では、廃棄物投棄75件、大気汚染53件、悪臭23件、水質汚濁及び騒音21件の順となっています。

■環境関連苦情受付件数の推移



《1 快適で健全な生活が営めるまちづくり》

■被害地域の用途地域別の環境関連苦情受付件数

被害地域の区分	環境関連苦情の種類									合計
	大気汚染	水質汚濁	土壤汚染	騒音	振動	地盤沈下	悪臭	廃棄物投棄	その他	
住居地域	33	14	0	9	0	0	10	21	0	87
近隣商業地域	1	1	0	2	0	0	3	6	0	13
商業地域	3	0	0	4	0	0	0	2	0	9
準工業地域	5	0	0	3	4	0	6	4	1	23
工業地域	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
工業専用地域	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
その他の地域	10	6	0	3	0	0	3	41	1	64
合計	53	21	0	21	4	0	23	75	2	199

2. 大気の状況

(1) 環境基準等の達成状況（平成 24 年度）

市内には、山口県が設置した一般環境大気測定局が 5 局、自動車排出ガス測定局が 1 局あります。

二酸化窒素、一酸化炭素はすべて環境基準を達成していますが、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質は一部達成していません。光化学オキシダント、微小粒子状物質基準は環境基準を、また非メタン炭化水素も指針値を達成していません。

■大気の環境基準等達成状況（平成 24 年度）

◆大気測定局位置図（山口県設置）



測定局	二酸化硫黄		二酸化窒素	一酸化炭素	浮遊粒子状物質		オキシダント	光化学オキシダント	素（指針値）	非メタン炭化水素	微小粒子状物質
	長期的評価	短期的評価			長期的評価	短期的評価					
一般環境大気測定局											
1 榎浜支所	○	×	○	—	○	○	—	—	—	—	—
2 徳山商工高校	○	○	○	—	○	○	—	—	—	—	—
3 周南市役所	○	○	○	—	○	○	×	×	×	×	—
4 浦山送水場	○	×	○	—	○	×	—	—	—	—	—
5 宮の前児童公園	○	○	○	—	○	○	×	×	×	—	—
自動車排出ガス測定局											
6 辻交差点	—	—	○	○	○	○	—	×	—	—	—

出典：環境白書 山口県環境生活部

・○：環境基準等達成 ×：環境基準等超過 —：測定していません。

・非メタン炭化水素は国の指針の達成状況を示します。

・周南市役所の微小粒子物質は環境省が設置した機器により H23 より測定しています。

(2) 市における測定結果

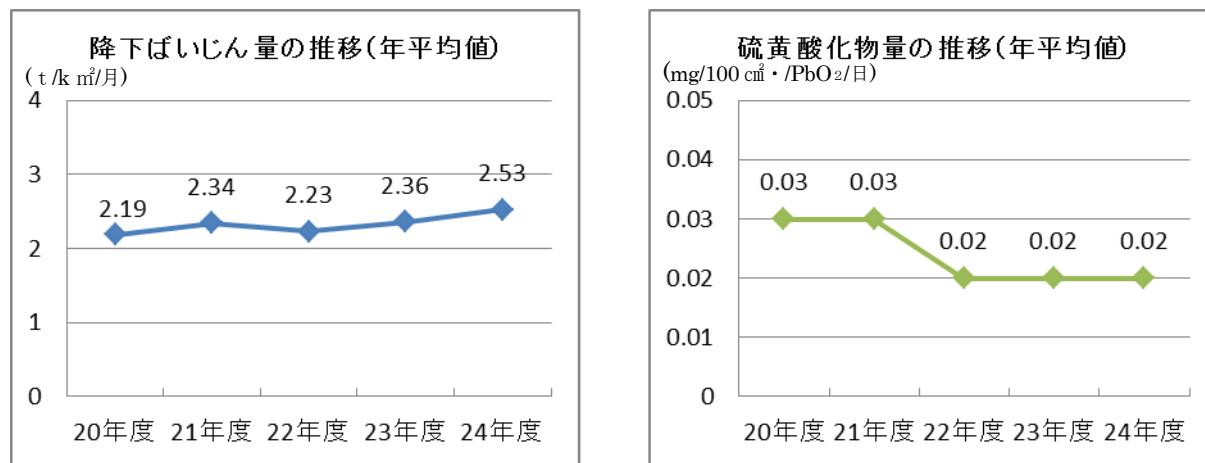
市では、市内 17 地点で降下ばいじん、15 地点で硫黄酸化物を測定しています。降下ばいじんの年平均値は $2.53\text{t}/\text{km}^2/\text{月}$ 、硫黄酸化物では、 $0.02\text{mg}/100\text{cm}^2 \cdot \text{PbO}_2/\text{日}$ で、いずれも近年は横ばい傾向にあります。

◆大気測定場所位置図（周南市設置）



《1 快適で健全な生活が営めるまちづくり》

■降下ばいじん量・硫黄酸化物量の経年変化



※平均値は、降下ばいじん、硫黄酸化物とともに、用途地域の区分が準工業、商業、住居地域に該当する調査地点の結果から算出。

3. 水質の状況

(1) 河川の状況

①環境基準の達成状況（平成24年度）

市内を流れる河川のうち、錦川、夜市川、富田川、島田川及び佐波川の5河川について環境基準が定められており、県が測定しています。

市内に環境基準点がある3河川の5地点すべてにおいてBODは環境基準を達成しています。

■河川のBODの環境基準達成状況

河川名	調査地点	類型	BODの環境基準達成状況（年度）				
			H20	H21	H22	H23	H24
錦川	垂門橋	A	○	○	○	○	○
夜市川	湯野国際観光ホテル前の井堰	A	○	○	○	○	○
	常盤橋	B	○	○	○	○	○
富田川	横矢堰	A	○	○	○	○	○
	新開橋	B	○	○	○	○	○

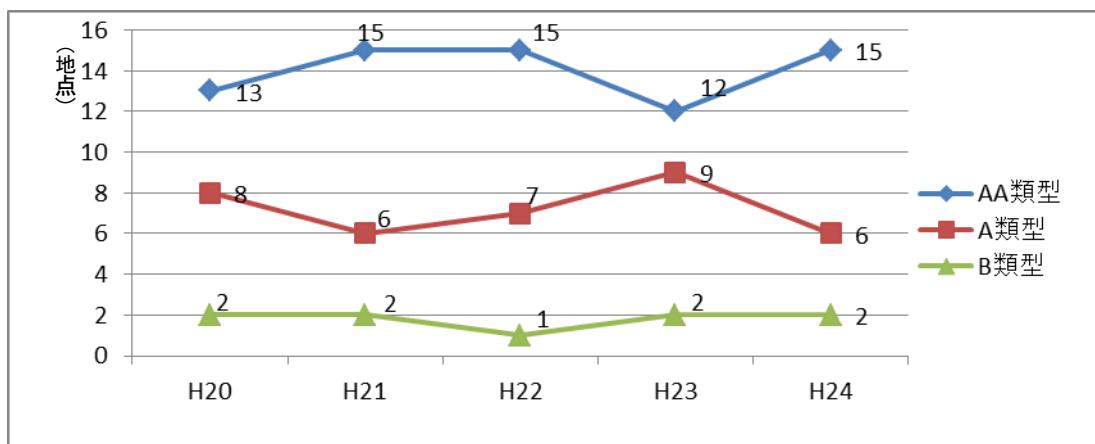
出典：環境白書 山口県環境生活部

- ・環境基準達成とは、すべての環境基準点において、日間平均値の環境基準適合日数が総測定日数の75%以上である場合をいいます。
- ・BOD（生物化学的酸素要求量）は、微生物が水中の有機物質を酸化分解するために必要な酸素量で、大きいほど汚れています。

②市における測定結果

市は、環境基準のない市内の中小20河川、23地点で独自に水質を調査しています。各地点のBODを環境基準と照らして評価すると、一番厳しい基準であるAA類型に相当する水質の河川が15地点、次に厳しい基準のA類型に相当する水質の河川が6地点、B類型に相当する水質の河川が2地点でした。

■環境基準のない河川のBODの環境基準相当状況



- ・環境基準のBOD類型はAA～Eまで6分類あり、AAからEにいくほど汚れています。
- ・平成20年度に測定箇所を見直し、同じ川の流れで数箇所測定している場合、上流を除きました。

《1 快適で健全な生活が営めるまちづくり》

(2) 海域の状況

①環境基準の達成状況（平成24年度）

徳山湾では、県が環境基準点を11地点定め状況調査を行っています。

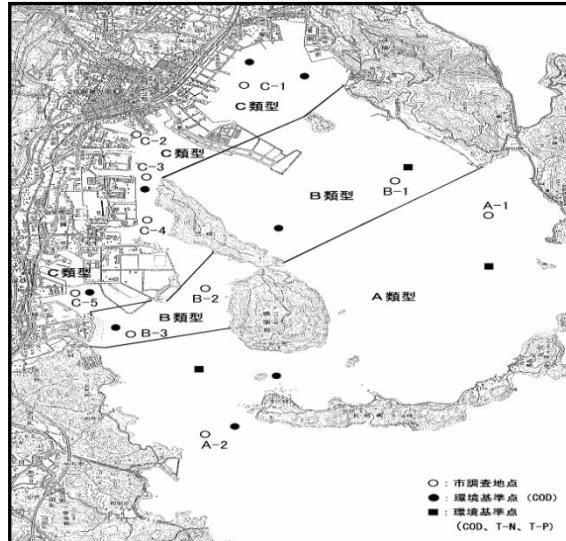
沖合に行くほど基準は厳しく、A類型のCODは、環境基準を達成していません。

■海域の環境基準達成状況（平成24年度）

海域名	COD 類型	T-P-T-N 類型	達成状況		
			COD	T-N	T-P
徳山湾	A	II	未達成	達成	達成
	B		達成		
	C		達成		

出典：環境白書 山口県環境生活部

- ・ CODは、水中の汚濁物質が化学的に酸化するときに必要な酸素量で、大きいほど汚れています。
- ・ CODの環境基準評価は、75%水質値により判断します。
- ・ T-N（全窒素）は、いろいろな化合物の形で水の中に含まれる窒素を、窒素だけの重さで表したものです。
- ・ T-P（全リン）は、いろいろな化合物の形で水の中に含まれるリンを、リンだけの重さで表したものです。



②市における測定結果

市は、環境基準点以外に徳山湾の10地点で、生活環境項目の水質汚濁状況を調査しています。

各地点のCODの環境基準達成状況は、A類型、B類型は達成しておらず、C類型は達成していました。

■環境基準点以外の環境基準達成状況

海域名	COD 類型	測定 項目	測定箇 所数	環境基準達成状況(年度)				
				H20	H21	H22	H23	H24
徳山湾	A	COD	2	×	×	×	×	×
	B		3	×	×	×	×	×
	C		5	○	○	○	○	○
	T-P-T-N 類型	測定 項目	測定箇 所数	環境基準達成状況(年度)				
				H20	H21	H22	H23	H24
	II	T-N	10	×	×	×	×	×
		T-P	10	○	○	○	○	○

・○は環境基準達成、×は未達成を表しています。

《1 快適で健全な生活が営めるまちづくり》

(3) 湖沼の状況

①環境基準の達成状況（平成24年度）

市内の湖沼は、県が定めた環境基準点が菅野湖、菊川湖、高瀬湖、米泉湖の4地点あり、汚濁状況の調査が行われています。

■環境基準点の環境基準達成状況

湖沼名	環境基準			達成状況		
	COD	T-N	T-P	COD	T-N	T-P
菅野湖	A	II	II	○	※1	×
菊川湖	A	II	II	○	×	×
高瀬湖	A	—	—	○	—	—
米泉湖	A	II	II	○	※1	×

出典：環境白書 山口県環境生活部

※1) 菅野湖、米泉湖の窒素については当分の間適用しません。

・菊川湖、米泉湖のT-Pの環境基準は暫定目標です。

(4) 地下水の状況

①環境基準の達成状況（平成24年度）

県では地下水の水質汚濁の状況を監視するため、水質測定計画を策定し、地下水の水質調査を市内23地点で行っています。

平成24年度の概況調査では、環境基準を超過した地点はありませんでした。

(5) 赤潮の発生状況

平成24年度は、6月～8月にかけて赤潮の発生が確認されています。

■赤潮の発生状況

	発表年月日 (調査年月日)	発生海域	赤潮構成種名
1	6/18(6/18)	周南市沿岸(新南陽)	ヘテロシグマ アカシオ
2	6/22(6/22)	徳山湾、周南市戸田沿岸	ヘテロシグマ アカシオ
3	7/23(7/23)	徳山湾	カレニア ミキモトイ
4	7/25(7/26)	徳山湾	カレニア ミキモトイ
5	8/17(8/17)	徳山湾	カレニア ミキモトイ

出典：海鳴りネットワーク 山口県水産振興課

4. 騒音振動の状況

(1) 騒音の環境基準の達成状況（平成24年度）

市は、環境騒音を市内の15地点で測定しています。

平成24年度で昼間、夜間とも環境基準を達成したのは、道路に面しない地域で6地点中4地点（達成率67%）、道路に面する地域で6地点中全て（達成率100%）、幹線道路に近接する空間で2地点中全て（達成率100%）でした。

■環境基準達成状況

類型		調査地点数	環境基準適合			昼間・夜間とも環境基準を超過
			全区分	昼間のみ	夜間のみ	
道路に面していない地域	A地域	2	1	1	0	0
	B地域	2	1	1	0	0
	C地域	2	2	0	0	0
道路に面する地域	A地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域	2	2	0	0	0
	B地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域及びC地域のうち車線を有する道路に面する地域	4	4	0	0	0
道路に面する地域で幹線交通を担う道路に近接する空間		2	2	0	0	0
指定地域外		1	—	—	—	—

(2) 自動車騒音・振動の要請限度の適合状況（平成24年度）

市は、主要な5路線で自動車騒音を8地点、振動を3地点で測定しています。

騒音は国道2号の1地点でのみ昼間の要請限度を超えていましたが、振動はすべての地点で要請限度を下回っていました。（達成率100%）

■要請限度適合状況

区分	路線名	調査地点数	要請限度適合			昼間・夜間とも要請限度超過
			全区分	昼間のみ	夜間のみ	
騒音	国道2号	2	1	1	0	0
	国道315号	1	1	0	0	0
	県道下松新南陽線	2	2	0	0	0
	県道徳山新南陽線	1	1	0	0	0
	山陽自動車道	2	2	0	0	0
振動	国道2号	1	1	0	0	0
	県道下松新南陽線	1	1	0	0	0
	県道徳山新南陽線	1	1	0	0	0

・要請限度とは、自動車による騒音や振動により道路周辺の生活環境が著しく損なわれている場合、市長が公安委員会や道路管理者に必要な措置の要請や意見を述べることができる限度をいいます。

《1 快適で健全な生活が営めるまちづくり》

(3) 自動車騒音常時監視の状況（平成24年度）

市は、平成24年度より騒音規制法第18条に基づき、自動車騒音の状況の常時監視を行っています。

平成24年度は、市が評価を行った4評価区間及び県が平成23年度以前に行つた既評価区間の計15評価区間において評価しました。環境基準の達成状況は、昼夜間とも環境基準を達成したのは89.5%(4,411戸)、昼間又は夜間のみ環境基準を達成したのは5.8%(285戸)、昼夜間とも環境基準を達成しなかったのは4.7%(234戸)でした。

■平成24年度自動車騒音常時監視結果

評価年 度	評価 区間 延長 (km)	評価区間の 始点	評価区間の終点	測定地点 住所	騒音レベル (dB)		環境基 準類型	環境基 準達成率 (%) a.=b+c+d+e	評価対象 住居等 戸数 (戸)	昼間・夜間 とも基準値 以下 b (戸)	昼間 のみ 基準値 以下 c (戸)	夜間 のみ 基準値 以下 d (戸)	昼間 夜間 とも基準値 超過 e (戸)
					昼間	夜間							
2010	6	大字原	岩国市周東町下須通	周南市熊毛町大字樋口	71	69	用途地 域外	92	12	11	1	0	0
2007	4.6	大字原	大字大河内	大字呼坂西勝間	75	74	B	7	97	7	10	0	80
2012	3.4	大字久米	大字徳山三田川	桜木1丁目1	66	65	C	89	1624	1441	131	0	52
2010	5.2	大字下上	大字徳山	大字徳山5854-41	68	65	C	98	617	602	15	0	0
2009	4.4	大神3丁目	若山2丁目	温田1丁目10-1	73	71	B	100	365	365	0	0	0
2008	3.6	若山2丁目	大字戸田中河原	戸田1161	72	69	B	48	127	61	24	0	42
2008	0.2	桜馬場2丁目	桜馬場2丁目	桜馬場2丁目	67	59	C	100	34	34	0	0	0
2012	2.5	大字大河内	大字大河内	大字大河内	62	56	B	100	80	80	0	0	0
2012	1.7	大字栗屋	大字櫛ヶ浜	大字櫛ヶ浜	70	64	C	88	276	243	0	33	0
2007	4.6	住崎町	古泉1丁目	古泉町3丁目	70	64	C	96	294	282	0	12	0
2009	3.6	古市1丁目	若山1丁目	古市1丁目1-21	70	64	C	71	365	259	0	57	49
2011	2.2	遠石3丁目	桜馬場通3丁目	青山町	66	61	C	100	160	160	0	0	0
2012	1.9	岐山通1丁目	南浦山町	岐山通	66	59	C	100	659	659	0	0	0
2008	2.6	南浦山町	清水2丁目	桶川町4-1	64	58	C	100	192	192	0	0	0
2008	0.7	大字櫛ヶ浜	横浜町5	横浜町1-12	71	66	C	54	28	15	2	0	11

《1 快適で健全な生活が営めるまちづくり》

5. 化学物質の移動等の状況（P R T R制度）

P R T R制度は、事業者が有害な化学物質の排出量及び事業所外への移動量を国に報告し、国がそれらの量を把握・集計・公表する仕組みです。

周南市の関連事業所も、P R T R制度により有害な化学物質の排出量及び移動量を公表しています。

P R T Rデータ地図上表示システム <http://www2.env.go.jp/chemi/prtr/prtrmap/>

6. 下水道、集落排水の普及等の状況

下水道は、雨水による浸水を防ぐとともに、汚水を処理し、海域や河川の水質を保全するなど、快適で衛生的な生活をするために必要不可欠な公共財産です。1日も早い普及率100%の達成をめざしています。

■下水道等の普及状況

(平成25年3月31日現在)

	行政区域 人口	認可区域 面積	処理区域 面積	整備済 管渠延長	処理 人口(B)	普及率 B/A(%)
公共下水道	—	3,923 ha	3,009 ha	765.6 km	128,507人	85.5%
集落排水事 業	—	279 ha	279 ha	77.4 km	5,952人	4.0%
合併浄化槽	—	—	—	—	7,252人	4.8%
合計	150,383人 (A)	4,202 ha	3,288 ha	843.0 km	141,711人	94.2%

・公共下水道には特定環境保全公共下水道を含みます。

平成25年3月末における公共下水道の普及率は85.5%、水洗化率は95.1%でした。

また、集落排水の水洗化率は82.0%でした。

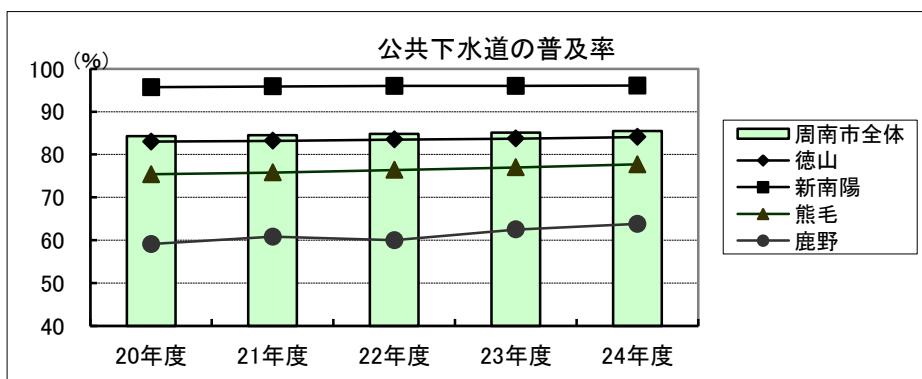
■公共下水道の地区別普及状況

(平成25年3月31日現在)

地域	行政区域人口	処理区域人口	水洗化人口	水洗化率	普及率
徳山	99,043人	83,297人	78,530人	94.3%	84.1%
新南陽	31,550人	30,334人	29,424人	97.0%	96.1%
熊毛	16,172人	12,566人	12,411人	98.8%	77.7%
鹿野	3,618人	2,310人	1,820人	78.8%	63.8%
周南市全体	150,383人	128,507人	122,185人	95.1%	85.5%

・普及率とは、(処理区域人口/行政区域人口)の割合です。

・水洗化率とは、(水洗化人口/処理区域人口)の割合です。



《1 快適で健全な生活が営めるまちづくり》

■集落排水の地区別普及状況

(平成25年3月31日現在)

処理区	処理区域面積	処理区域人口	水洗化人口	水洗化率
山手(須々万)	130 ha	3,556人	2,828人	79.5%
須々万市	50 ha	1,161人	1,106人	95.3%
高瀬	18 ha	204人	186人	91.2%
八代	68 ha	651人	437人	67.1%
糸島	13 ha	380人	322人	84.7%
周南市全体	279 ha	5,952人	4,879人	82.0%

7. 都市計画区域内の土地の利用状況

計画的な土地利用の推進を図るため、「周南都市計画区域（徳山・新南陽地域）」及び「周南東都市計画区域（熊毛地域）」を定めています。

■周南都市計画区域（徳山・新南陽地域）の内訳

(単位: ha)

			周南都市計画区域(徳山・新南陽地域)				
			市街化区域	市街化調整区域	合計		
自然的 的土地 利用	農地	田	181.8	853.5	1,035.3		
		畠	141.4	332.6	464.0		
		小計	323.2	1,176.1	1,499.3		
	山林	268.8	13,459.5	13,728.3			
	水面	27.0	142.3	169.3			
	その他の自然地	73.6	276.0	349.6			
	小計	692.6	15,053.9	15,746.5			
都市的 的土地 利用	宅地	住宅用地	1,058.6	236.5	1,295.1		
		商業用地	161.1	12.4	173.5		
		工業用地	1,099.3	63.2	1,162.5		
		小計	2,319.0	312.1	2,631.1		
	公共・公益用地		364.9	72.9	437.8		
	道路用地		489.9	304.5	794.4		
	交通施設用地		49.0	6.7	55.7		
	その他公的施設用地		0.0	0.0	0.0		
	その他の空地		66.6	90.9	157.5		
	小計		3,289.4	787.1	4,076.5		
合計			3,982.0	15,841.0	19,823.0		
可住地			2,203.3	15,035.8	17,239.1		
非可住地			1,778.7	805.2	2,583.9		

※資料：平成24年度都市計画基礎調査

《1 快適で健全な生活が営めるまちづくり》

■周南東都市計画区域(熊毛地域)の内訳

(単位 : ha)

			周南東都市計画区域(熊毛地域)		
			用途地域	用途地域外	合 計
自然的 的土地 利用	農地	田	54.6	539.4	594.0
		畠	17.7	72.4	90.1
		小 計	72.3	611.8	684.1
	山 林	山 林	106.9	3,558.5	3,665.4
		水 面	3.6	36.8	40.4
		その他の自然地	30.4	177.0	207.4
		小 計	213.2	4,384.1	4,597.3
都 市 的 の 土 地 利 用	宅 地	住宅用地	136.5	112.5	249.0
		商業用地	5.6	11.2	16.8
		工業用地	8.4	19.0	27.4
		小 計	150.5	142.7	293.2
	公共・公益用地	公共・公益用地	33.6	18.2	51.8
		道路用地	58.1	133.4	191.5
	交通施設用地	交通施設用地	2.6	4.4	7.0
		その他公的施設用地	0.0	0.0	0.0
	その他の空地	その他の空地	11.0	92.2	103.2
		小 計	255.8	390.9	646.7
	合 計	469.0	4,775.0	5,244.0	
	可住地	340.7	4,402.7	4,743.4	
	非可住地	128.3	372.3	500.6	

※資料：平成 24 年度都市計画基礎調査

II 基本施策の実施状況

1 公害の未然防止対策の推進

目標：公害の未然防止に努め、快適な生活環境を保全します。

(1) 公害防止体制の整備

① 環境審議会の開催

周南市環境審議会は周南市環境審議会条例に基づき設置し、環境の保全に関する事項を調査・審議します。

■ 平成 24 年度における環境審議会の開催状況

環境審議会の開催	4月 27 日 (周南市文化会館)
報告の件数	報告事項 2 件

環境審議会の開催	11月 14 日 (新南陽ふれあいセンター)
質問の件数	質問事項 2 件

② 環境保全協定の締結

市と企業は、公害を未然に防止し、住民が健康で快適な生活を営むことができる良好な環境を保全するため、環境保全協定を結んでいます。

また、大気汚染防止法や水質汚濁防止法、山口県公害防止条例などによる排出基準よりも厳しい上乗せ基準を定める細目協定を締結し、平成 23 年度から 24 年度にかけて大気と悪臭の基準を見直しました。

■ 環境保全協定及び細目協定の締結状況 (平成 25 年 4 月 1 日現在)

協定締結内容	協定締結数
環境保全協定	48 社
環境保全協定に基づく細目協定	40 社

③ 地域対話の実施

地域対話とは、企業が地域との共存のために「透明性の確保」と「対話」を通じて、地域住民の不安や疑問に応え、また自主的な取り組みを紹介し、事業活動への理解を深めてもらう自主活動のひとつです。

■ 平成 24 年度の地域対話の実施状況

	実施状況
第 8 回レスポンシブル・ケア 山口東地区地域対話	11月 29 日(木) (ホテルサンルート徳山)

《1 快適で健全な生活が営めるまちづくり》

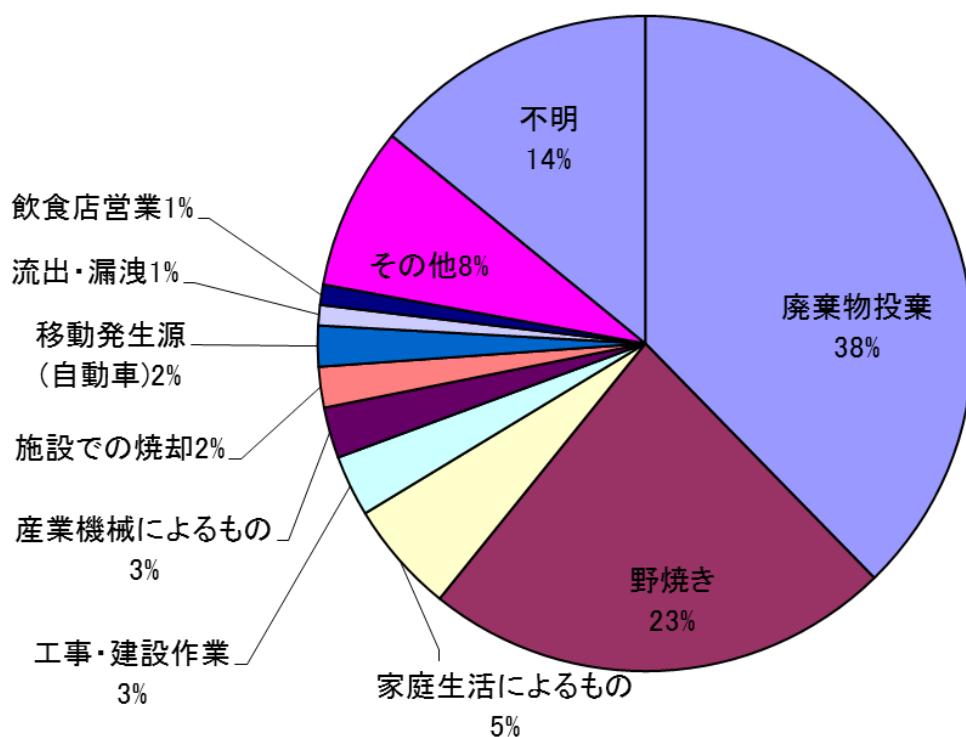
④環境関連苦情への対応

環境関連苦情への対応は、直接対応 174 件、国等の機関に移送 4 件、翌年度へ繰越 1 件、その他 20 件の合計 199 件でした。

受け付けた苦情の発生源は、会社・事業所 34 件、個人 62 件、その他 5 件、不明 98 件でした。

また、発生原因は、廃棄物投棄 75 件、野焼き 46 件、家庭生活によるもの 11 件、工事・建設作業 6 件、産業機械によるもの 5 件、施設での焼却 4 件、移動発生源（自動車）4 件、流出・漏洩 2 件、飲食店営業 2 件、その他 16 件、不明 28 件でした。

公害苦情の発生原因の割合



(2)調査・監視体制の整備

①環境保全協定に基づく自主監視の実施

環境保全協定に基づく細目協定の締結企業は、大気、水質、騒音・振動等について、自主監視の実施とともに、市も立入調査により確認しています。

平成 24 年度の立入調査では、2 地点で水質の協定値超過がありましたが、それ以外はすべての企業において細目協定による協定値が遵守されていました。

また、超過した地点においても、現在は改善されています。

2 大気環境の保全

目標：快適な大気環境を保全・創出し、環境基準の達成を目指します。

(1) 自動車排ガス対策の推進

①市役所におけるエコカー（低公害車）の導入

市の公用車（総務課管理）は全部で 221 台あります。そのうちハイブリッド車は 26 台で全体の約 12% で、電気自動車は 1 台です。また、低排出ガス認定車 162 台を含めると全体の約 87% です。これからも、計画的にエコカー導入を進めていきます。

(2) 事業場の排ガス対策の推進

①排ガス中のばいじん濃度、窒素酸化物濃度及びダイオキシン類の調査

市では環境保全協定に基づき、協定締結企業が排出するガス中のばいじん濃度、窒素酸化物濃度及びダイオキシン類の濃度に対し、法規制値より厳しい値で協定値を締結し、測定しています。その結果、協定値は守られていました。

■平成 24 年度における事業場の排ガス測定結果

調査項目	調査地点数	協定値超過数
窒素酸化物濃度	4 地点	0
ダイオキシン類濃度	1 地点	0

※平成 22 年度から、ばいじん濃度と窒素酸化物濃度については、隔年で測定しています。

3 水環境の保全

目標：快適な水環境を保全・創出し、環境基準の達成を目指します。

(1) 生活排水対策の推進

① 下水道等の整備

生活排水の処理には、公共下水道、集落排水などの集合処理と浄化槽（合併処理）の個別処理があります。合併浄化槽を除く市全体の水洗化率（水洗化人口／行政人口）は84.5%です。

■下水道等の整備状況

（平成25年3月31日現在）

種類	行政人口(A)	水洗化人口(B)	水洗化戸数	行政人口に対する割合 B/A
公共下水道	—	122,185人	54,956戸	—
集落排水	—	4,879人	2,017戸	—
計	150,383人	127,064人	56,973戸	84.5%

② 水洗化融資制度の実施

トイレの水洗化を促進するため、トイレの水洗化資金の融資あっせんと利子補給を行っています。

■平成24年度における水洗化融資制度の融資等の件数

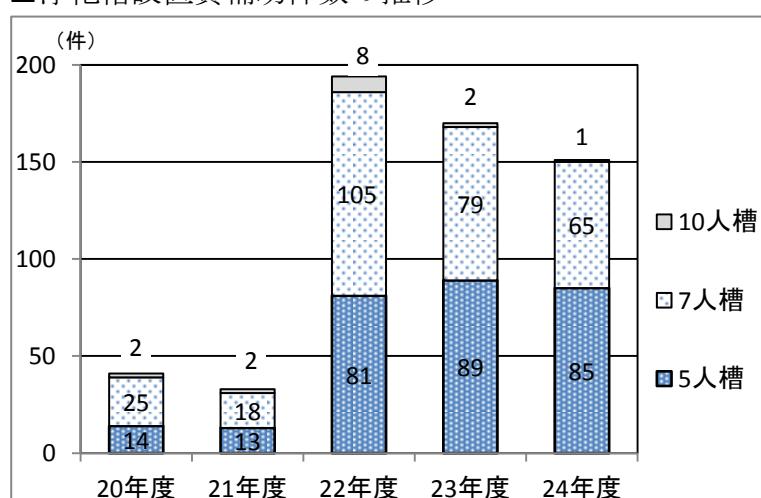
処理名称	融資あっせん申請者数	利子補給者数
公共下水道	2	1
集落排水	0	0
計	2	1

③ 浄化槽設置費補助の実施

公共下水道及び集落排水の処理区域でない地域の家庭に浄化槽設置費を補助し、生活排水の環境負荷低減を図っています。

平成22年度から、従来の補助金に加え市単独の上乗せにより、補助件数が平成21年度と比較して約5倍と大幅な増加となりました。

■浄化槽設置費補助件数の推移



《1 快適で健全な生活が営めるまちづくり》

(2) 事業場の排水対策の推進

① 工場排水の調査測定

市は、企業との環境保全協定に基づき、法規制値より厳しい値で協定値を締結し、工場排水の水質を測定しています。その結果協定値の超過が2件みられましたが、現在は改善されています。

■ 平成24年度における工場排水の水質調査結果

主な検査項目	調査地点数	調査件数	協定値超過数
排水量、水温、pH（水素イオン指数）、SS (浮遊物質量)、COD(化学的酸素要求量)、 T-N(全窒素)、T-P(全リン)	41 地点	555 件	2 件

(3) 健全な水環境の保全

① 公共施設の浸透性舗装の施工

透水性舗装は、雨水を地下に浸透させることで、下水や河川の氾濫の防止や植生・地中生態の改善、地下水の涵養等の効果があります。

■ 平成24年度における透水性舗装の施工状況

名 称	施工数量
周南緑地、周南緑道、都市公園の透水性舗装	A=11,956 m ²
市道遠石馬屋線歩道の透水性舗装	L=157m A=349 m ²

4 騒音・振動の防止対策の推進

目標：快適な音環境を保全・創出し、環境基準の達成をめざします。

(1) 事業場の騒音・振動対策の推進

①工場騒音・振動の調査

市は、企業と締結した環境保全協定に基づき、年1回の立ち入り調査を実施しています。平成24年度は協定値の超過はありませんでした。

■平成24年度における工場騒音・振動の調査結果

項目	測定企業数	測定地点	協定値超過数
騒音、振動	26社	77地点	0

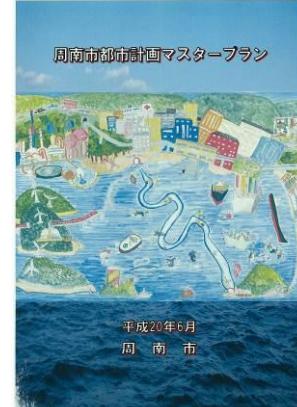
5 土地利用の適正化

目標：土地利用の適正化を図り、快適な生活環境を維持・創出します。

(1) 計画的な土地利用の推進

市内各地域の特性を活かした、適正かつ合理的な土地利用等の基本方針を定めた「周南市都市計画マスタープラン」を平成20年度に策定しました。

本プランに基づき、地域別のあるべき市街地像、課題に対応した各種整備等を市民と行政の協働により推進しています。



【周南市都市計画マスタープラン】

(2) 快適な生活環境の維持・創出

① 緩衝緑地の整備

市内には、住宅・商業地域での大気汚染・騒音・悪臭などの公害の防止・緩和や、工業地帯の災害防止などを目的として、緩衝緑地を79.61ha設置しています。

平成24年度には園路の整備を行いました。